

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0970200721		
法人名	社会福祉法人東徳会		
事業所名	グループホームほたる		
所在地	栃木県足利市稲岡町1064 (電話) 0284-90-2212		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年11月27日	評価確定日	平成21年1月8日

【情報提供票より】(平成20年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤7人, 非常勤1人, 常勤換算5.04人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	14,400 円	その他の経費(月額)	・理美容代, おむつ代, レク交通費, 医療費一実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	食事代金に含む
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年10月31日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	栃木県・佐野医師会病院, 源田歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは足利市と佐野市の境界に位置し、静かで自然豊かな山の麓にあるグループホームである。敷地内には池や東屋があり、ミニチュアホースが飼われており、近隣の方が動物に会いにくることもある。敷地内に同一法人の特別養護老人ホームがあり、法人理念に「長命から長寿へ」を掲げ、また自戒、職員行動訓など法人が目指す方向性や職員像を示している。協力病院と密な連携を図り、看取りも行われている。また、ホームの2階には、和室、風呂、キッチン等が備えてあり、家族が宿泊できるようになっている。入居者の思いを尊重し、その人のペースで自由な生活ができるよう支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果については十分に活用できていない部分がある。今後は運営推進会議で報告し、助言を得て改善に取り組んでいきたいと考えている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、評価票を職員に提示して説明し、話し合いを行ったうえで管理者がまとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議のメンバーは、自治会長、家族会代表、入居者代表、民生委員、市担当職員、法人代表となっており、2ヶ月に1回開催している。会議では利用状況の報告やホームの行事等について意見交換がなされ、ホームのサービス向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月の利用料支払いを家族の訪問の機会として活かし、その際に入居者の近況報告や介護計画の同意、ホームへの要望を伺い、家族との情報交換を行っている。ホーム玄関に意見箱を設置している。今までに苦情は寄せられていない。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの周りには民家がほとんどなく、隣近所との日常的なつきあいは困難な面もあるが、敷地内に池や東屋があつたり、ミニチュアホースを飼育しているため、近隣の方が訪れる機会に入居者と交流できるよう配慮している。地元小・中学生のボランティアを受け入れて交流をしている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の意思を尊重し、その人らしい生活ができる環境づくりを目指し、法人理念「長命から長寿へ」や自戒、職員行動訓などを掲げている。	○	今後更に地域との関わりや入居者の地域生活に視点を置いたグループホーム独自の理念を検討していくことにも期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念に掲げられた「長命から長寿へ」を実現するため、日々の中で、また月1回開催される職員会議で意見交換を行い、共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの周りには民家がほとんどなく、隣近所との日常的なつきあいは困難な面もあるが、敷地内に池や東屋があったり、ミニチュアホースを飼育しているため、近隣の方が訪れる機会に入居者と交流できるよう配慮している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果については十分に活用できていない部分がある。今回の自己評価は、評価票を職員に提示して説明し、話し合いを行ったうえで管理者がまとめた。	○	外部評価の結果について運営推進会議で報告し、意見や助言をもらいながら取り組みができるところから改善を図っていくことを期待したい。

グループホームほたる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは、自治会長、家族会代表、入居者代表、民生委員、市担当職員、法人代表となっており、2ヶ月に1回開催している。会議では利用状況の報告やホームの行事等について意見交換がなされ、ホームのサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者に様々な事項について相談し、アドバイスを受けている。また、同一法人の特別養護老人ホームやデイサービスセンターと合同で行事を行うことで運営推進会議以外にも市担当者と接する機会を設けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には毎月の利用料を持参していただくことになっており、その際に入居者の健康状況や金銭管理の報告をしている。職員の異動については、その都度入居者・家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と直接話し合う機会を設けており、家族から伺った意見や情報は職員会議で協議し、運営に反映させている。家族会があり、家族会の代表が運営会議に参画している。意見箱を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等の際には、入居者が混乱しないよう徐々に説明するようにしている。入居者との話の中で入居者からの提案があり、ホームで送別会を行ったりもしている。		

グループホームほたる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修が2ヶ月に1回定期的実施され、職員が参加している。参加できない職員にはレポートで研修内容を伝えている。また、職員の経験等に応じて外部研修への参加を促しているが、いまのところ本年度の受講はない。	○	職員不足により研修参加の調整が難しい様子もうかがえるが、今後も各職員が必要な研修を受講できるよう工夫・配慮をしていくことに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及び職員は他のグループホーム職員との交流や情報交換をする機会があり、サービスの質の向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始時に家族と相談し、外泊や外出を繰り返して徐々にホームの生活に慣れるよう配慮している。また、ホーム2階には家族が宿泊できる設備がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は見守りや目配りをしながらその都度職員間で声を掛け合い、洗濯物たたみや掃除等できることは自分でしてもらったり一緒に行ったりして共に支えあう関係づくりに努めている。		

グループホームほたる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中で、声かけや話をしながら入居者一人ひとりが求めていることを把握している。希望などの意向の表出が困難な方には家族の協力を得ながら把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者、家族、主治医と相談したり助言を得ながら介護計画を作成している。また月1回の職員会議や毎日の申し送り時などに職員の気づきや意見を聞き、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは6ヶ月を目安にしている。状態の変化時には主治医、本人、家族と話し合っで見直しの検討をするなど、適宜介護計画の見直しを行い家族の同意を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の要望により職員が同行して買い物や選挙に行くなど柔軟な支援に努めている。また同一敷地内に特別養護老人ホームやデイサービスセンターが併設され、行事等を通してボランティアとの交流が図られている。		

グループホームほたる


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望するかかりつけ医での受診を支援している。かかりつけ医や協力病院とは情報交換を行い、入居者が適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の対応については家族と話し合いのうえ対応し、終末期ケアについても指針に基づき対応している。看取りの経験もあり、職員間においても方針の共有が図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりのプライバシーを尊重して日々の声かけや対応の仕方について職員間で共有を図りながら支援している。また記録等の個人情報については、家族から同意書をもって適切な取り扱いをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、「共同生活」に考慮しながらも入居者個々のスタイルに合わせた支援をしている。訪問時にもテレビを見たり、居室でくつろいだりと思いつきに過ごされている様子が見られた。		

グループホームほたる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の宅配を利用しており、味付けなどは入居者の好みに配慮しながら宅配の献立を参考に調理している。また月1~2回出前をとって食事を楽しめるように支援している。職員も入居者と同じものを食していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後に入浴を支援しており、その中で入居者の好きな時間帯に入浴できるよう対応し、入浴の支援をしている。入居者の希望があれば夜間浴の対応も検討したいと考えている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴などをもとに家事や掃除等、それぞれの入居者が役割を担っている。天気の良い日には買い物や散歩をして気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回の外食、買い物など外出の機会を設けている。入居者の重度化に伴い、外出の減少もあるが、天気の良い日にはなるべく外の空気に触れられるよう散歩をして外出の支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は常時開錠していた。現在は徘徊する方、帰宅願望の強い方がおり、やむを得ず施錠の回数が増えた。他の入居者についてはその都度開錠している。	○	施錠の回数を減らして以前のように常時開放したいと考えているので、入居者の安全や安心の確保を検討しながら入居者の自由な生活を支えていくための支援方法を検討していくことに期待したい。

グループホームほたる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携して年2回の避難訓練を行っている。地域の方には運営推進会議を通して協力の働きかけをしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は宅配を利用しており、カロリー計算のされた献立となっている。毎回の食事量をチェックして必要量が摂取できるよう配慮している。水分摂取についても記録して十分摂取できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	屋内はきれいに清掃され、テレビの音や職員の声かけも静かで穏やかであった。また壁にかけられた絵画等が落ち着いた雰囲気をつくり、入居者が居心地よく過ごせるような環境づくりに努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みは自由でドレッサーや机など入居者が使い慣れた物、好みの物、必要なものを家族と相談しながら居心地よい居室づくりを支援している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。